

平成 28 年度 【就労・日中】支援部会報告

部会テーマ【高齢化・重度化を支える日中事業の環境】

構 成 員【就労移行支援事業所・就労継続支援 A 型事業所・就労継続支援 B 型事業所・生活介護】

部 会 開 催	○世話役会議（7/ 26） ●第1回部会（8/29） 参加者 18 名 ・昨年度の振り返り、今年度のテーマと年間計画 ・テーマ：利用者の高齢化・重度化の現状と支援について
	○世話役会議（10/19） ●第2回部会（10/31） 参加者 21 名 ・前回の部会の内容の確認 ・テーマ：利用者の健康状態と健康管理について
	○世話役会議（1/11） ●第3回部会（2/13） 参加者 16 名 ・前回の部会の内容の確認 ・テーマ：災害時の重度者対応と防災について
テ ー マ に つ い て 深 め た 点	・高齢化の現状と支援について 疾病率と通院支援の増加への対応、家族の高齢化と利用者支援 ・重度化への対応 余裕のある部屋・空間の確保、自閉性障害者への音・視覚刺激の遮断 ・健康管理 狭い空間による感染症等の罹患の増加、看護師確保が困難 ・災害時対応 重度者の避難、建物の耐震問題や備えへの情報不足
部 会 の ま と め	高齢化・重度化に対応するための課題 ・事業所の建物構造の脆弱さや障害に対応できる空間の確保 ・健康状態の把握と予防 ・看護師配置 ・災害時の重度者への支援体制(建物の耐震も不安) ・介護保険への移行の課題

平成 28 年度 【入所・グループホーム】支援部会報告

部会テーマ【暮らしの場での高齢化を考える】

構 成 員【 入所施設・グループホーム 】

部 会 開 催	○世話役会議（6/23） ●第1回部会（7/27） 参加者 11 名 ・昨年度の振り返り ・今年度の部会テーマと年間計画の検討 ・八尾市障がい福祉課と世話役との懇談報告（GH利用者の現状について）
	○世話役会議（8/16） ●第2回部会（10/27） 参加者 13 名 ・2事例報告 ちのくらぶ（69歳女性 網膜剥離による失明と身体機能の低下） - ポポロの会（グループホームにおける感染症へのアプローチ） ・事例報告を受けてのグループ討議
	○世話役会議（12/21） ●第3回部会（1/23） 参加者 12 名 ・研修「利用者的高齢化に対応した暮らしの場を考える」 - 講師 佐藤 修氏（大阪聴覚障害者福祉会 専務理事） ※府内数力所の市・町において、障害者の入所施設、通所事業所、グループホーム、（障害）高齢者の特別養護老人ホーム等を運営 ・研修を受けての意見交換
	○世話役会議（1/21） ●第4回部会（3/8） 参加者 41 名 ・世話人研修会、交流会「高齢化をむかえた利用者に対する食事提供方法について」 - 講師 橋本 奈里紗氏（クリエイトしき 管理栄養士）
テ ー マ に つ い て 深 め た 点	・高齢化・重度化実態と支援内容の変化 - 病気・不調による日常的な健康管理 - 夜間の病気・不調への緊急対応 - 世話人の問題（確保の問題と専門性） 医療支援 ・親の高齢化により帰宅できない人の増加 365日の支援体制、日中の支援体制(平日・土日) ・高齢化・重度化に対応する暮らしの場について - 高齢者のグループホームからの次の暮らしの場(介護保険含め) ・地域のグループホームづくりの今後について
部 会 の ま と め	・利用者的高齢化・重度化に伴う支援体制が必要 - 世話人の確保と人数配置・専門性の問題 - グループホームに医療体制がない問題 ・日中の支援体制が必要 - 平日の日中、土日の支援体制の問題 - 通院支援の問題（通院支援の利用が必要） ・グループホームだけでない暮らしの場の検討

平成 28 年度 【障害児】 支援部会報告

部会テーマ【それぞれのライフステージを豊かなものにするために】

構 成 員【八尾保健所、支援学校、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、
放課後等デイサービス、居宅介護事業所、日中一時支援事業所、短期入所 】

部会開催	○世話役会議（7/20） ●第1回部会（9/12） 参加者 22 名 ・本会議等昨年度の振り返りと今年度の活動について →放課後デイサービス部会の設置（児童部会のサブ部会的な位置で） ・各機関の状況交流	
	本部会	放課後デイ部会
	○世話役会議（11/28） ●第2回部会（11/30） 参加者 13 名 ・各機関の支援状況の情報交流 ・幼児期の支援課題について検討	○世話役会議（9/12） ●第1回部会（10/13） 参加者 17 名 ・各事業所の実施状況の情報交流
	○世話役会議（1/20） ●第3回部会（1/23） 参加者 25 名 ・やおっこファイルについて ・今年度のまとめ 計 3 回	○世話役会議（11/28） ●第2回部会（12/1） 参加者 16 名 ・各機関の支援状況の情報交流 ・学齢期や放課後・余暇支援の課題について 計 2 回
テーマについて深めた点	・短期入所への希望の増加 次子出産、母の体調不良、など希望があるが、他市の事業所を利用している ・医療の進歩に伴い、高度医療を行いながらも、退院する子どもが増えている 訪問看護やヘルパーの利用だけでは、長期的な支援として不十分 ・家族への支援について 保育所訪問等支援など親との契約のため利用が広がりにくく、親の障害受容への支援が難しい	・個々の事業所での支援状況の共有化 思春期への支援の難しさ。 障害特性にあった支援方法について。 成長に合わせた支援方法、など ・複数事業利用児の支援の統一について 事業所間のネットワーク作りや共通ノートの活用、会議の必要性、など ・家族への支援について 家族にも支援が必要と思われる家庭への対応
部会のまとめ	・身近な地域で利用できる障害児短期入所が必要 ・医療的ケアが必要な子どもが安心して出かけられる場所や親への支援	・事業所間の連携を行い、情報共有や支援の向上をはかる必要がある
	・「気づき期」への丁寧な支援のための行政機関との連携 ・児童期から青年期への経年的支援ができる仕組み	

平成 28 年度 【地域生活】支援部会報告

部会テーマ【障がい児・者のライフステージを豊かなものに】

構 成 員【 居宅介護事業所 】

部会開催	○世話役会議（6/16） ●第1回部会（7/19） 参加者 16 名 ・在宅で過ごす方の社会資源の利用について現状報告 ・どんな社会資源があれば良いと思うか意見交換を行う
	●第2回部会（12/19） 参加者 14 名 ・在宅介護での問題点と改善方法について意見交換を行う ・
	●第3回部会（2/27） 参加者 18 名 ・研修 「地域の居場所・集いの場」～関係作り、繋がり作り、地域作り～ ・講師 前田正道氏（ノーマルライフ在宅サポートセンター代表 生活支援コーディネーター大阪府指導者）
テーマについて深めた点	・利用者のニーズに合わせた社会資源の種類が少ないのか、行き場がない方が自宅にひきこもっている ・ヘルパー確保が難しく、人員不足で利用者が移動支援を利用するのも順番を待つ現状 ・人員不足→求人の応募がない。有資格者がヘルパーとして就業していない。様々な理由でヘルパーをやめてしまう。 ・精神疾患の方の状態変化が激しく、特に対応が困難
部会のまとめ	・行き場がない人の集まれる場所作りを考えていく必要がある ・人員確保→新たな有資格者養成、有資格者の活用、学生アルバイトを増やして移動支援の対応を考える。事務所間で情報共有して、人員確保のための努力をしていく。 ・障害特性への理解や対応力など、技術や意識を高める専門性のスキルアップの必要性がある。

平成 28 年度 【精神保健】 支援部会報告

部会テーマ【障がい児・者のライフステージを豊かなものに】

構成員【精神科病院・精神科クリニック・就労継続支援事業所・八尾保健所・八尾市社会福祉協議会・相談支援事業所 等精神保健に関わる機関】

部会開催	○世話役会議（6/10） ●第1回部会（8/10） 参加者 18名 18～29 歳・30～49 歳・50 歳～ ステージに分け、現状と課題についてグループワークを行う。
	○世話役会議（7/26・8/31・9/12） ●第2回部会（10/12） 参加者 36名 八尾市地域包括支援センターと相互の機能を知り、「相談・連携を円滑にするために」というテーマでグループワークを行う。
	○世話役会議（11/14・1/10） ●第3回部会（12/16） 参加者 46名 ・研修「社会的障壁としての“障害”」 講師 滋慶医療科学大学院大学 岡 耕平氏 障害という概念の変換や人間工学からの捉え方の講義から学びを深めた。
テーマについて深めた点	・課題を言語化・可視化する事で共有することが出来た。引きこもり・家族との関わり・就労に関しての意見が多く、今後の生活を見据えた支援の必要性和障害種別を越え児童や高齢分野との連携の必要性が重要となる。課題が一定の時期で終わらず、継続することを認識した。 ・介護保険に移行する際に適切な支援の継続が出来るように、地域包括支援センターと共同で部会を開催し、相互の機能を知り、円滑に連携できるように顔の見える関係づくりを行うことが出来た。 ・「発達障害」の支援に関して、社会資源が不足し、支援者も含めて周囲の理解度が低い。全ての部会を対象とすることで「発達障害」を「共有の課題」として学びを深める機会になった。
部会のまとめ	・高齢分野支援者との連携強化や制度体制の改善が必要 対象者の高齢化により、介護保険への移行でサービス量の減少や自己負担が発生することで適切な支援を受けることが出来ない事例が上がっている。 ・発達障害の理解を促進するための講座や研修の開催が必要 ・本人が介入を拒否するケースへの対応 ・精神科長期入院患者への支援 ・社会資源の開発 シングルマザーなどどこにも該当しない「間の支援」の不足と難しさがある。精神障害者の妊娠・出産の支援やショートステイの不足がある。